

JVMA通信

■ No.15 (平成27年1月号) ■

(発行元)

Japan Valve Manufacturers' Association

一般社団法人日本バルブ工業会

TEL: 03-3434-1811 FAX: 03-3436-4335

E-mail: info@j-valve.or.jp

URL: <http://www.j-valve.or.jp>



ばるちゃん

■ No.15 (平成27年1月号) 目次

■ 新年賀詞交歓会開催報告

・新年賀詞交換会の開催 1

■ 年頭のご挨拶

・田淵 宏政
一般社団法人日本バルブ工業会 会長 2

・遠山 毅
経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長 2

■ 説明会、セミナー開催報告

・平成26年度「次世代リーダー育成研修」報告 4

・「第6回若手半日ショップツアー」報告 6

・「中小企業の体験的アジア戦略」報告 6

・「安全保障貿易管理説明会」報告 6

■ 関係官庁・団体からのお知らせ

・「地方拠点強化税制」の創設について 7

・「機械安全」講演会のお知らせ 7

■ 当会の広報活動報告

・「バルブフォト五七五コンテスト」が
TVで紹介されました！ 7

(平成26年11月～平成27年1月) 8

■ 会員の動向 11

■ 新年賀詞交歓会開催報告

■ 新年賀詞交歓会の開催

開催日時: 平成27年1月15日(木) 12:30～14:00
開催場所: 銀行倶楽部 3階 大ホール
出席者数: 159名 (来賓: 46名、会員: 113名)

去る1月15日(木)、当会「新年賀詞交歓会」が東京・銀行倶楽部において開催された。

会長挨拶: 田淵 宏政 会長

来賓代表挨拶: 遠山 毅 氏 (経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長)

乾杯: 中川 哲 副会長

中々め: 中村 善典 副会長



田淵会長



遠山素形材産業室長

会の冒頭、田淵会長からは、平成27年度の活動として、バルブ産業ビジョンに基づいた技術・環境・雇用対策事業、人材育成事業、及び広報活動等について、昨年に引き続き積極的に事業展開していくとの抱負が語られた。

また、さまざまな産業活動がバルブによりコントロールされており、これを人間に例えるとバルブは「理性」である。日々の生活を陰ながらコントロール、管理する重要な縁の下の力持ちとして、バルブ工業会一丸となって今年も邁進していきたいとの挨拶があった。

来賓を代表して遠山素形材産業室長よりは、景気回復はあまり実感できない状況ではあるが、厳しい環境の変化もチャンスと捉え、我が国ものづくりの基盤を支える重要な産業として積極的に取り組んでまいし、また政府としてもさまざまな支援策を講じていくとの挨拶があった。

■年頭のご挨拶

■年頭所感 ■

一般社団法人日本パルプ工業会 会長 田渕 宏政



平成27年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

当工業会会員の皆様方には平素から多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、消費税増税による駆け込み需要の反動により、7月から9月のGDPは実質・名目ともにマイナス成長となりました。また、消費者の節約志向も顕著に表れ、国内の景気は足踏み状態が続きました。一方、設備投資につきましては、大企業で持ち直しの傾向が見られたものの、中小企業では弱さが見えました。

そのような中、昨年12月3日の小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げ成功は、高度な日本の技術を改めて世界に示した明るいニュースでありました。

世界経済を振り返りますと、まずユーロ圏におきましては、デフレのリスクが高まり、欧州中央銀行がマイナス金利という異例の金融政策を打ち出しました。また、中国経済におきましても不動産市況の低迷等により、景気は弱含みでありました。その反面、米国におきましては大寒波による一時的な景気の失速があったものの、後半にかけては回復傾向が見られました。

そのような状況下で当業界を取り巻く環境は、急激な円安により素材価格が高騰するなど、予断を許さない状況でありました。また、電力供給につきましても不安が一向に解消されず、企業にとって厳しい状況が続きました。

当工業会の平成27年の活動は、昨年に引き続き、パルプ産業ビジョン(第3期)のアクションプランに基づき、技術対策事業、環境対策事業、人材育成、雇用対策事業、広報活動を積極的に展開してまいります。

また、一般社団法人への移行に伴い実施しております「公益目的支出計画」が平成28年度に終了するのを見据え、既存の事業活動内容をより効率的で効果的なものとするため、抜本的な見直しに取り組んでいきたいと考えております。その実施のための組織の見直しにつきましても並行して進め、その結果を「パルプ産業ビジョン第4期(平成29年度～31年度)」の策定に反映させたいと思っております。

また、パルプ業界の更なる地位向上と一般の方々にパルプを知ってもらうために、今年も引き続き「パルプフォト五七五コンテスト」や、各地で開催される展示会へマスコットキャラクター「ばるちゃん」を活用した出展などを継続してまいります。

今年の干支「未」は、家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味しております。その暮らしを支えるために、我々パルプ業界は一丸となり、縁の下の力持ちとして今年も活躍してまいります。

おわりに、関係各位のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご繁栄とご健勝を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



■年頭所感 ■

経済産業省 製造産業局 素形材産業室 室長 遠山 毅



平成27年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

アベノミクスが始動して約2年が経ちました。昨年4月の消費税引き上げの際の駆け込み需要の反動や夏の天候の悪化などから個人消費を中心に弱さがみられますが、全体としては緩やかな回復基調が続いています。我が国製造業は、大企業を中心に業績が改善し、素形材産業の一部でも業績が改善したといった声も聞かれるなど、景気はリーマン・ショックや東日本大震災後に比べ、改善しているものと考えられます。

■年頭のご挨拶

一方で、急激な円安の進展等によるエネルギー価格や原材料価格の高騰など、素形材産業にとっては必ずしも順風満帆とは言えない状況も存在します。また、中長期的にみれば、少子高齢化社会の下での国内需要や労働力人口の伸び悩み、ITの進展等による製品そのものや製造技術、ビジネスモデルの変化、新興国をはじめとしたグローバル競争の進展など、素形材産業を取り巻く課題は山積しています。

こうした状況を踏まえ、一昨年、「新素形材産業ビジョン」をとりまとめました。この中では、競争力強化に向けて「世界で勝てる技術力を持つ」、「仕事の幅を広げて付加価値を高める」、「魅力的なものづくりの現場で魅力的な人材を育てる」等素形材産業の目指すべき6つの方向性について提言したところです。今後も、新興国や他の先進国の企業との差別化は不可欠であり、各企業において、長年にわたって培われた独自の技術やノウハウをベースに、先端的な技術やアイデアを融合させながら、グローバル市場の獲得に向け、積極的に取り組んでいくことが重要となります。「新素形材産業ビジョン」で提言された素形材産業の目指すべき方向性を踏まえつつ、本年も、経済産業省としては、引き続き皆様方の課題にきめ細かく対応し、企業のチャレンジを後押ししてまいりたいと存じます。

まず、素形材産業の企業価値を高める取組を支援します。企業価値を高めるには、差別化された技術力、海外をはじめとしたニーズを的確にこみ取り、製品化につなげる力、良質な品質を維持する力、海外とのコスト競争力などが上げられます。経済産業省としては、研究開発、設備投資、試作品開発、販路開拓、事業承継等を支援する各種中小企業支援施策、設備投資促進税制、研究開発税制、事業再編促進税制等各種優遇税制措置、省エネ推進などエネルギー対策、また、産業競争力強化法に基づく企業実証特例制度などの活用を通じて、企業が自ら価値を高めるような取組を積極的に支援します。また、各企業が行っている先進的な取組に関する情報の共有などにも取り組んでいきたいと思います。さらに、引き続き「素形材産業取引ガイドライン」の普及啓発を行い、素形材企業関係者及びその取引企業関係者間の適正な取引の確保及び双方の健全な発展を促します。また、昨年開始した「三次元造型技術を核としたものづくり革命プログラム」を強力に推し進め、世界最高水準の金属加工用3Dプリンタの実現に向け、機器開発を進めると同時に、3Dプリンタを活用した付加価値の高いものづくり手法の開発も進めていきます。

次にグローバル需要を獲得するための海外展開を支援します。昨年、素形材産業室では、新興国における海外展開の可能性を調査するため、特に自動車産業の集積が著しいメキシコ、インドネシアの2カ国において「素形材産業海外ミッション」を実施しました。また、本年1月から2月にかけてインド及びインド周辺国、ミャンマーの素形材産業調査を実施する予定です。本年は、こうしたミッションや調査の成果を素形材関連業界内に共有するとともに、これを踏まえて、更なる充実を図りたいと考えています。また、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)や独立行政法人中小企業基盤整備機構の施策なども活用し、アジアや新興国だけでなく、欧米の先進国も含め、商談機会の提供や海外企業とのマッチングなどの支援を推進したいと考えています。

三番目に素形材産業の人材活用や情報発信の取組を支援します。言うまでもなく、製造業にとって、付加価値の源泉は「人」です。しかし、少子高齢化社会が進展し、労働力人口の減少が現実のものとなりつつあります。こうした中、伝えていくべき技術は何かを見極めた上で、ITなどを活用して技術化できる技術は積極的に進めていく、また、女性やシニア人材の力をさらに活かしていくといった取組が重要になってきます。経済産業省としましては、昨年来、素形材産業における人材活用のあり方について調査しており、本年も引き続き調査や有識者による議論を行った上で、成果を素形材関連業界内に発信していきます。また、引き続き、11月の素形材月間に合わせて、素形材産業の重要性やものづくり現場の魅力の発信に努めて参ります。

我が国は、明治以来、ものづくりを中心に経済が発展し、また、ものづくりによって社会を変えてきました。資源が少なく、日本語が通じる市場も国内に限られる我が国においては、今後もものづくりが経済発展、社会発展の中心にありつづけると思えます。一方で、ものづくりをとりまく環境は大きく変化しており、こうした変化に対応しながら、製品、製造方法、ビジネスモデルを常に変革していく必要があります。場合によっては、大きな痛みを伴う場合もあるでしょう。しかし、環境の変化はチャンスでもあります。こうしたチャンスをつかむための積極的なチャレンジに、経済産業省はしっかりと応えていく所存です。

昨年、私は、素形材関連団体の会合に出席したり、素形材関連の企業を訪問させて頂き、関係者の皆様と様々な意見交換をさせて頂きました。本年も、現状を具に把握しつつ、各業界の皆様としっかり議論しながら、各種施策を進めていきたいと思います。

最後に今年一年の皆様の健康とご多幸を、そして我が国素形材産業のますますの発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



■説明会、セミナー開催報告

■平成26年度「次世代リーダー育成研修」報告

会員企業の中堅社員層の指導力強化を目的に、「次世代リーダー育成研修」を計6日間に渡り開催した。昨年度に引き続き、第2回目の開催となる今回の研修では、最終2日間(11月)をホテルでの宿泊研修とし、受講者間の交流の場をより多く設けた。本研修では、座学よりもグループでの討議、協同での問題解決といった演習を重視した内容となっている。

■開催概要 ■

開催期間: 平成26年9月18日(木)～19日(金)、10月16日(木)～17日(金)、11月13日(木)～14日(金)
(木曜日:13:00～17:00、金曜日:9:00～17:00、11/13～14は日本青年館ホテルでの宿泊研修)

開催場所: 機械振興会館 および 日本青年館ホテル

受講者数: 18社30名

(受講者の平均データ)

年齢:37.3歳、勤続年数:12.7年、部下人数:4.6名、
役職:営業所長、課長、主任、係長、Gリーダー等

受講料: 92,000円

講師: 寺本 明仁 氏 (株式会社誠和マネジメント 代表取締役)



■次世代リーダー育成研修カリキュラム ■

(グループごとに講師から与えられる課題について討議、共同作業を行った)

1日目=9月18日(木)

時間	実施内容
13:00～13:30	【挨拶】 ●全研修カリキュラムの説明 ●第1回研修カリキュラムの説明 ●自己紹介
13:30～15:30	【講義】【討議】 ●リーダーシップのあるべき姿とは? ●自分のリーダーシップスタイル ●リーダーシップ:変革の必要性
15:30～17:00	【講義】【討議】 ●マネジメント活動の基礎と本質 ●リーダーとしてのありたい姿を描く

※次回までの宿題: 職場でのマネジメント強化対策の実施と効果測定

2日目=9月19日(金)

時間	実施内容
9:00～9:30	【振り返り】 ●昨日の振り返り
9:30～12:00	【講義】【演習】 ●問題解決思考 ・「問題」とは何か/原因の掘り下げ
12:00～13:00	昼食
13:00～15:30	【講義】【演習】 ●達成管理マネジメント ・マネジメント機能の分析 ・マネジメント機能強化策のポイント
15:30～17:00	【演習】 ●職場実践計画の策定

3日目=10月16日(木)

時間	実施内容
13:00～14:30	【振り返り】 ●職場での改善事例共有 ●職場での課題共有
14:30～15:30	【講義】【討議】 ●人材育成とは何か
15:30～16:30	【講義】【討議】 ●「思い込み」の払拭
16:30～17:00	【講義】【演習】 ●「聴く」スキル

※次回までの宿題: 職場でのコミュニケーション改善対策の実施と効果測定

4日目=10月17日(金)

時間	実施内容
9:00～9:30	【振り返り】 ●昨日の振り返り
9:30～10:30	【演習】 ●「聴く」スキル
10:30～12:00	【講義】【演習】 ●「質問する」スキル
12:00～13:00	昼食
13:00～14:00	【講義】【演習】 ●「褒める」スキル
14:00～15:00	【講義】【演習】 ●「叱る」スキル
15:00～16:00	【講義】【演習】 ●「指示出し」「報告受け」のスキル
16:00～17:00	【演習】 ●職場実践計画の策定

■説明会、セミナー開催報告

5日目=11月13日(木)

時間	実施内容
13:00~14:30	【振り返り】 ●職場での改善事例共有 ●職場での課題共有
14:30~16:00	【講義】【討議】 ●ミーティングマネジメント ・ミーティング運営上の課題 ・ミーティングマネジメント力強化と対策
16:00~17:00	【講義】【演習】 ●プレゼンテーションスキル

※個別レビューは、個々の参加者の発表資料に対して講師よりアドバイスをを行う

6日目=11月14日(金)

時間	実施内容
9:00~9:15	【振り返り】 昨日の振り返り
9:15~12:00	【演習】 ●職場改善計画の作成 ・問題整理&計画作成 ※場合により個別レビュー実施
12:00~13:00	昼食
13:00~16:30	【発表】 ●職場改善計画の発表 ※1人15分の持ち時間で発表
16:30~17:00	【まとめ】 ●発表内容の講評&まとめ

■アンケート結果まとめ ■

今回の研修では、多くの受講者から「満足」との回答を得られており、現状の部下への指導方法等を見直し、リーダーとしてのあるべき姿を再認識するよいきっかけとなったようである。また、普段なかなか聞くことのできない同業他社、他部署の方々から、リーダーならではの悩みを聞いたことは、共感できる部分や新たな発見も多く、改めてリーダーとしてなすべきことを理解・整理できたようだ。

Q1. 本研修を受けるまで、部下・後輩への指導方法や接し方などについて、悩み・迷い・不安等を感じることはありましたか？

A あった(ほぼ毎日) 5

(コメント)

- どのように指導、また接するべきか全くわからなかった。
- 部下に仕事を任せられず、全て自分でやっていた。
- 部下とのコミュニケーションの取り方

B あった(時々) 20

(コメント)

- 部下の気持ちがわからず不安があった。
- こちらの意図が相手側に向く伝わらないことがあった。
- 部下に積極性、自主性を出させるにはどうしたらよいか。
- 世代・経験の差があるため、目標・レベルを合わせた接し方
- 業務の負荷に対する不安、他部署との関わりにおける悩み
- 個性を理解した指示出し、男女の指示出しの違い

C 特になかった 1

Q2. 本研修を受けるまで、部下・後輩にはどのような指導や接し方をしてきましたか？

A 別の研修(社内や社外での研修)で学んだ指導法を参考に指導してきた 3

B 自分が上司・先輩から受けた指導と同じ方法をとってきた 17

C どうすればよいのかわからないまま闇雲に指導してきた 4

D その他(自分の考えのもとに実施していた) 2

Q3. 本研修の満足度をお聞かせください。

A 満足(今後大いに役立ちそう) 22

B ふつう(学んだ内容の一部は役立ちそう) 4

C 不満(新しく学んだ内容は特になかった、これまでと変化はなさそう) 0

Q4. 講師の研修の進め方はどうでしたか？

A 良かった 23

B ふつう 3

C 良くなった 0

Q5. 本研修で特に良かったのはどの項目ですか？

A リーダーシップのあるべき姿	12	G 質問するスキル	3
B 問題解決思考	2	H 褒めるスキル	7
C 達成管理マネジメント	2	I 叱るスキル	12
D 人材育成とは何か	7	J 「指示出し」「報告受け」のスキル	1
E 思い込みの払拭	5	K ミーティングマネジメント	7
F 聴くスキル	14	L プレゼンテーションスキル	3

Q6. あなたの同僚や上司、部下(やがてリーダーになる部下)にも本研修の受講を勧めたいですか？

A 同僚に勧めたい 16

B 部下に勧めたい 20

C 特に誰にも勧めない 0

Q7. 研修を終えてのご感想をお聞かせください。

- グループでのディスカッション形式を含めた研修だったので、他社・他部門と意見交換ができ、また、お互い抱える問題などを聞いて良かった。
- 今、まさに会社全体で取り組んでいる内容(人材教育)で非常に参考になった。いかに個々のスキルをあげていくのが順を追って理解できた。
- 通常業務の中で無意識に行っていたことを理論で説明され、再認識することができた。
- 日頃から実施できている事もあったが、受講者との意見交換などで自信につながったり、逆に勉強になることもあった。意識の切り替えができそうである。
- リーダーシップの良い例、悪い例の映像があると活字以上に印象に残り日常業務の場で意識付くのではないかなと思う。

■「第6回若手半日ショップツアー」報告【自動弁部会主催】

自動弁部会が主催する「若手半日ショップツアー」の第6弾として、「神奈川県産業技術センター」見学会を昨年11月に実施した。自動弁部会では、最先端技術への知見を深め、他の参加者との交流の場として、若手技術者向けの見学会を定期的に行っている。見学レポートは以下のとおり。

<p style="text-align: center;">■ ■ ■ 若手半日ショップツアー感想文 ■ ■ ■</p> <p>(株)フジキン 筑波研究工場 技術部 単品機器設計グループ 主担 渡邊 義明</p>	<p>見学日：平成26年11月28日(金) 場 所：神奈川県産業技術センター（神奈川県海老名市） 参加者：13名</p>
---	--

平成26年11月28日にバルブ工業会様のご厚意により若手社員を対象とした公益財団法人 神奈川県産業技術センターの見学会に参加させて頂きました。

見学の流れとしては、初めにセンター概要の説明を受けた後、

- ①電気自動車の充電設備、系統連係充放電設備
 - ②熱物性測定室
 - ③環境試験室
 - ④非破壊検査実験室
 - ⑤表面分析室
 - ⑥精密測定室
- の各所を見学させて頂きました。

センターでは「産業技術センター」の名称から最初にイメージする検査機器貸し出し等のものづくり支援だけでなく、研究開発、人材育成、技術情報の配信を行っているという説明を受け、幅広い活動で産業界に貢献していることが理解できました。特に基盤的研究を自主的に行っているという点に興味を持ちました。人材育成についても専門的なカリキュラムが数多くあり、実践的な教育が受けられるという印象を受けました。

センター内見学ではその装置を使用している専門の担当者の方から説明を受けました。質疑応答も含め各種設備への理解度が高まりました。設備の中では非破壊検査と精密測定室の三次元測定機の2点が特に興味深いと感じました。非破壊検査ではX線カメラとCTスキャンを用い1サンプル2時間程度で材料欠陥などの解析が可能です。自分の勤務する筑波研究工場では半導体業界向けのステンレス製バルブを製造しており各種部品の検査として非破壊検査が有用と考えました。三次元測定機については振動による誤差を無くすために測定機専用基礎から建物を建て直したと説明を受け、ものづくり支援に対する真摯な姿勢を感じました。

今回の見学会で学んだ検査機器などの知識を今後の開発業務に活かしていきます。また、見学終了後の懇親会で同業他社の若手メンバーと交流・意見交換出来たことも貴重な体験となりました。

最後になりましたがお忙しい中、各設備について説明して下さいました神奈川県産業技術センターの皆様へ感謝申し上げます。

■その他の説明会報告

■「中小企業の体験的アジア戦略」

【主催：国際委員会】

各国のモノづくりの現状、海外の市場動向、文化の違いによるビジネスの進め方等について、国際委員会では定期的に会員企業向けのセミナーを開催している。

今回のセミナーでは、金型業界のグローバル化の成功例として、(株)伊藤製作所 社長を講師としてお招きし、アジアへの海外進出の体験談をご講演いただいた。

開催期日：平成26年12月16日(火) 14:00～16:30

開催場所：機械振興会館（東京タワー前）

参加者：18名

講演テーマ・講師：

テーマ：「中小企業の体験的アジア戦略」

講師：伊藤 澄夫 氏

((株)伊藤製作所 代表取締役社長)



■「安全保障貿易管理説明会」

輸出管理体制のレベルアップを図るとともに、安全保障貿易管理制度の重要性について幅広く理解を深めていただくことを目的として、会員企業の輸出業務担当者向けに下記のとおり説明会を開催した。

開催期日：平成27年1月20日(火) 14:00～16:30

開催場所：機械振興会館（東京タワー前）

参加者：23名

講演テーマ・講師：

- 1) 安全保障貿易管理について

講師：中村 啓子 氏（経済産業省 安全保障貿易審査課 上席安全保障貿易審査官）

- 2) 法令遵守のポイント

講師：識名 朝恵 氏（経済産業省 安全保障貿易検査官室 安全保障貿易管理検査等職員官）



■関係官庁・団体からのお知らせ

■「地方拠点強化税制」の創設について【経済産業省】

平成27年度税制改正として、「地方拠点強化税制」が創設される。これは、本社移転又は本社機能の強化・拡充・拡大に際しての優遇税制で、地方創生を税制面で後押しするもの。

地方拠点強化税制は、「**拡充型**」と「**移転型**」の2本柱。（いずれも対象は、東京圏、中部圏中心部、近畿圏中心部を除く地域）

- ・**拡充型**： 地方にある企業の本社機能等の強化を支援
- ・**移転型**： 東京23区から地方への本社の移転を支援



オフィス投資減税（最大25%の特別償却、又は7%の税額控除）
雇用促進税制の特例（増加雇用者一人当たり最大80万円の税額控除等）

※本社機能とは、経営意思決定、総務、経理、人事などの各種業務を統括する事業所（工場及び地域を管轄する営業所等は含まない）

※上記の措置を受けるためには、自治体が地域再生法に基づく「地域再生計画」を作成し、その計画に沿った事業者からの申請を自治体の知事が承認することで優遇税制を受けることができる。

【地方拠点強化税制に関する資料(PDF)】 <http://www.j-valve.or.jp/pdf/chihokiyoten.pdf>



■「機械安全講演会」のお知らせ【(一社)日本機械工業連合会】 ※参加申込締切：2月10日(火)
 機械安全関連の動向 一人間共存型ロボット、労働安全衛生マネジメントシステムー

(一社)日本機械工業連合会では、国内産業への機械安全普及活動の一環として、機械安全関連の講演会を開催している。今年度2回目となる講演会を下記のとおり開催する。(定員:350名、参加費:無料)

開催日時・場所：平成27年2月25日(水) 13:30～16:30（開場12:30）／ 星稜会館ホール（東京都代田区永田町）

講演会対象者： 機械設備製造事業者及び機械設備使用事業者の経営者・管理者・設計者・生産技術者など

講演会：機械安全関連の動向 一人間共存型ロボット、労働安全衛生マネジメントシステムー

～ プログラム ～

- 1) 「はじめに 一講演会の内容について」 (一社)日本機械工業連合会 宮崎浩一 氏
- 2) 基調講演「機械安全を取り巻く国内外の動向」 明治大学 向殿政男 氏
- 3) 「人間共存型ロボットの安全と傷害耐性値等について」 名古屋大学大学院 山田陽滋 氏
- 4) 「ISO 45001(労働安全衛生マネジメントシステム)について」 中央労働災害防止協会 斉藤信吾 氏



【講演会に関するお問い合わせ先・申込先：(一社)日本機械工業連合会】 <http://www.jmf.or.jp/topic01/20.html>

■当会の広報活動報告

■「バルブフォト五七五コンテスト」がTVで紹介されました！

今回で4回目となる 当会主催の「バルブフォト五七五コンテスト」が、川柳やキャッチフレーズなどの公募について紹介するテレビ番組(千葉テレビ制作)で紹介された。

「達人道(たつじんのみち) ～第145回 公募の達人～」
 1月9日放送:千葉テレビ / 1月15日放送:テレビ神奈川・テレビ埼玉

※第4回バルブフォト五七五コンテストの応募締め切りは、平成27年2月1日(日)

コンテストの詳細: <http://www.j-valve.or.jp/valbphoto575/apply.html>

番組では「ばるちゃん」のぬいぐるみも登場！



日本バルブ工業会マスコットキャラクター
ばるちゃん

工業会活動報告（平成26年11月～平成27年1月）

バルブ部会

◎部会

26-11-07(金) 於:ホテルグランヴィア大阪

出席者:26名

主要審議事項:

- (1) 平成26年度若手社員研修会報告
- (2) 各分科会・WGの活動報告
- (3) 次世代リーダー育成研修報告
- (4) 平成27年度バルブ部会の活動について

◎工業用分科会

○電力弁G会議

26-12-18(木) 於:機械振興会館

出席者:10名

主要審議事項:

- (1) 川内原発安全審査終了後の動向について
- (2) 海外プラントの建設動向について
- (3) 円安の影響等について

○鑄鍛鋼弁G/ステンレス・ボール弁G合同会議

26-11-21(金) 於:大阪鐵鋼會館

出席者:11名

主要審議事項:

- (1) 国内のLNG、原発等各種産業の動向について
- (2) 海外でのメンテナンスについて
- (3) 日本バルブ工業会への要望について

◎建築用分科会

26-11-27(木) 於:大阪鐵鋼會館

出席者:10名

主要審議事項:

- (1) 国交省「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)」平成25年度版見直しについて
- (2) 関西地区の建築状況(工期遅れ等)について
- (3) 冷温水からヒートポンプへの変更増に伴うバルブ使用量の減少について

◎産業用分科会

○彦根産業用弁G、水道用弁G、船用弁G合同会議

26-12-12(金) 於:やす井

出席者:11名

主要審議事項:

- (1) 3G活動報告
- (2) その他、情報交換

27-01-29(木) 於:彦根支部会議室

出席者:12名

主要審議事項:

- (1) 3G活動報告
- (2) 平成26年度下期及び通期生産高について
- (3) その他

◎船用弁分科会

26-11-21(金) メルパルク大阪

出席者:11名

主要審議事項:

- (1) 造船市場の動向について
- (2) 近畿地区の造船船用工業の動向について
- (3) 船舶用JISフランジ国際標準化の検討結果等について

自動弁部会

◎見学会

26-11-05(水)

見学先:三井造船(株)玉野事業所

参加者:18名

◎部会

26-11-06(木) 於:後楽ホテル

出席者:12名

主要審議事項:

- (1) バルブ産業ビジョン関連の活動報告
- (2) 知財・特許に関するセミナーについて
- (3) 若手半日ショッブツアーについて
- (4) 来年度の事業計画について

◎見学会(若手半日ショッブツアー)

26-11-28(金)

見学先:神奈川県産業技術センター

参加者:12名

水栓部会

◎見学会

26-11-07(金)

見学先:滋賀県/(株)マツバヤシ、(株)清水合金製作所

参加者:12名

◎活動報告会

26-11-07(金) 於:滋賀県東北部工業技術センター彦根庁舎
会議室

参加者:12名

◎懇親ゴルフ会

26-11-08(土) 於:彦根カントリー倶楽部

参加者:10名

◎給水栓標準化小委員会

26-11-22(土) 於:鹿児島/アパホテル鹿児島国分

出席者:10名

26-12-16(火) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:11名

27-01-14(水) 於:機械振興会館

出席者:11名

主要審議事項:

- (1) 節湯基準の策定及びJIS化について
- (2) 長期使用住宅部材に関するテーマ策定について
- (3) 給水装置の構造材質基準・試験方法の見直しについて
- (4) 建産協「グリーン建材普及促進基盤構築調査事業」について
- (5) 浄水器関連JISについて
- (6) 省エネ住宅ポイントについて

◎止分水栓標準化小委員会

26-12-09(火) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) 若手社員研修会のテキスト見直しについて
- (2) 給水装置の構造材質基準・試験方法の見直しについて
- (3) 「ニッケルの水質基準化」について

◎保証小委員会

26-11-12(水) 於:機械振興会館

出席者:8名

27-01-21(水) 於:機械振興会館

出席者:6名

主要審議事項:

- (1) 水栓の保証に関する冊子について
- (2) 「水栓金具・事故対策マニュアル」改正について
- (3) 「水栓金具の安全確保のための表示に関するガイドライン」改正について

◎技術小委員会

26-11-27(木) 於:機械振興会館

出席者:11名

27-01-09(金) 於:機械振興会館

出席者:13名

主要審議事項:

- (1) 新技術研究開発プロジェクト「有害物質規制の対応技術調査Ⅱ」について
- (2) 材料に関する国内・国外の動向調査について

◎節湯WG

26-11-22(土) 於:鹿児島/Aパホテル鹿児島国分

出席者:10名

26-12-16(火) 於:東京/TOTO(株) 汐留ビルディング

出席者:10名

27-01-14(水) 於:機械振興会館

出席者:12名

主要審議事項:

- (1) 節湯B1(キッチン水栓)の省エネ基準化について
- (2) 節湯B2(浴室シャワー)の省エネ基準化について
- (3) 非住宅の節湯水基準見直しについて

ビジョン委員会

26-12-03(水) 於:機械振興会館

出席者:6名

主要審議事項:

- (1) 環境適合バルブ製品登録制度愛称&ラベル審査
- (2) 次世代リーダー育成研修実施報告
- (3) 高齢者雇用推進事業について
- (4) ビジョン委員会の組織構成変更案について

広報委員会

26-11-13(木) 於:TOTO アクアテクノ(株)大分工場

※展示会タスクチームとの合同会議として実施

出席者:8名

主要審議事項:

- (1) 委員の交代について
- (2) 「バルブの日」新聞企画について
- (3) 「バルブフォト五七五コンテスト」について
- (4) 着ぐるみ使用マニュアルの修正について
- (5) 展示会出展報告

26-12-17(水) 於:機械振興会館

出席者:9名

主要審議事項:

- (1) 「バルブの日」新聞企画について
- (2) 着ぐるみに付ける名札のデザインについて
- (3) 「バルブフォト五七五コンテスト」について
- (4) 来年度の展示会出展事業について
- (5) グッズ制作について

◎バルブ展示会タスクチーム

26-12-09(火) 於:TOTO(株)汐留ビルディング

出席者:4名

主要審議事項:

- (1) 今年度の展示会出展の総括
- (2) 来年度以降の展示会出展事業について

27-01-29(木) 於:TOTO(株)汐留ビルディング

出席者:4名

主要審議事項:

・来年度の展示会出展計画について

技術委員会

26-12-18(木) 於:機械振興会館

出席者:9名

主要審議事項:

- (1) 関連 JIS 及び ISO の状況について
- (2) 環境 WG の活動状況について
- (3) JV3(バルブユーザガイド)の改正について
- (4) 若手社員研修会について
- (5) 技術研修会について
- (6) バルブ学会設立準備 WG の活動状況について

◎環境WG

26-11-20(木) 於:機械振興会館

出席者:7名

主要審議事項:

- (1) 環境関連情報 10~11 月分についての報告
- (2) 環境適合バルブ製品登録制度運用に関するこれまでの活動経過及び今後の予定について
- (3) 環境適合バルブ製品登録制度愛称&ラベル審査について
- (4) バルブ製品アセスメント評価項目の検討
- (5) セミナー開催案について

27-01-22(木) 於:機械振興会館

出席者:10名

主要審議事項:

- (1) 環境関連情報 H26 年 12 月~H27 年 1 月についての報告
- (2) 愛称&ラベル審査状況について

- (3) 技術委員会審議内容に関する報告
- (4) 環境適合バルブ製品登録制度について

支部だより

◎バルブ学会設立準備WG

26-12-02(火) 於:機械振興会館

出席者:4名

主要審議事項:

- (1) シンポジウム開催延期決定後の動向について
- (2) 今後の活動について

バルブ技報編集委員会

26-11-18(火) 於:機械振興会館

出席者:9名

主要審議事項:

- (1) 通巻第73号制作状況について
- (2) 通巻第74号の特集について

調節弁規格作成委員会

◎調節弁規格作成委員会WG

26-12-03(水) 於:機械振興会館

出席者:6名

主要審議事項:

- ・JIS B 2005-2-1 改正審議について

IEC委員会

26-12-03(水) 於:機械振興会館

出席者:6名

主要審議事項:

- (1) 国際会議について
- (2) JWG17の活動(List of Properties)について

ISO/TC153/SC1 国内対策委員会

26-11-28(金) 於:機械振興会館

出席者:8名

主要審議事項:

- (1) ソウル国際会議の内容報告
- (2) 国際投票について

ISO/TC185 対策委員会

26-12-08(月) 於:東京海洋大学

出席者:12名

主要審議事項:

- (1) 国際投票について
- (2) 気液二相流の吹き出しに関する研究報告
- (3) APIにおける安全弁のサイジングの検討状況について

国際委員会

◎国際委員会セミナー

「中小企業の体験的アジア戦略」

26-12-16(火) 於:機械振興会館

参加者:18名

(※詳細は、P6「説明会・セミナー開催報告」参照)

東京支部

○役員会

26-11-11(火) 於:ホテル日航福岡

出席者:18名(委任状含)

主要審議事項:

- (1) 東京支部夏期研修会収支報告について
- (2) 東京支部秋期会員総集會収支報告について
- (3) 平成26年(1~8月)バルブの生産および輸出入実績について
- (4) 東京支部役員改選及び諮問委員の推薦について
- (5) (一社)日本鑄造協会主催:若手経営者全国大会について
- (6) その他
 - ・技術研究組合次世代3D積層造形技術総合開発機構(TRAFAM)への参画について

○懇親会(近畿支部役員会との合同開催)

26-11-11(火) 於:いずみ(福岡市博多区)

出席者:15名(東京支部役員8名、近畿支部役員7名)

○懇親ゴルフ大会(近畿支部役員会との合同開催)

26-11-12(水) 於:九州ゴルフ倶楽部 八幡コース

参加者:7名(東京支部役員4名、近畿支部役員3名)

優勝:中村政弘氏(オーエヌ工業株)

東海支部

○新年祝賀会

27-01-22(木) 於:岐阜グランドホテル

参加者:12名

○懇親ゴルフ大会

27-01-22(木) 於:岐阜関カントリー倶楽部

参加者:11名

優勝:栄森 貞治氏(黒谷株)

彦根支部

○忘年会(滋賀バルブ協同組合との共催)

26-12-12(金) 於:やす井

参加者:13名

○新年会(滋賀バルブ協同組合との共催)

27-01-23(金) 於:やす井

参加者:14名

○役員会

27-01-23(金) 於:やす井

出席者:5名

主要審議事項:

- (1) 3G(産業用弁G、水道用弁G、船用弁G)活動について
- (2) 情報交換、その他



近畿支部

○新年互礼会

27-01-23(金) 於:大阪新阪急ホテル
参加者:48名



近畿支部新年互礼会の様子

○役員会

26-11-11(火) 於:ホテル日航福岡
出席者:12名(委任状含)

主要審議事項:

- (1) 近畿支部秋季会員集会収支報告について
- (2) 近畿支部役員改選及び諮問委員の推薦について
- (3) 当会田淵会長、一瀬会長(全国管工機材商業連合会)合同
激励会について

※役員会終了後、東京支部役員と合同懇親会を、翌12日(水)には
合同懇親ゴルフ大会を開催

移 転

・(株)キッツ 東京支社

新住所(平成27年1月13日より)
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング8階
(営業事務グループ) TEL:03-6836-1500

・東洋バルブ(株) 本社

新住所(平成27年1月13日より)
〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5
オンワードパークビルディング8階
(管理部) TEL:03-6262-1652

■ ■ ■ 会員企業の皆様へ ■ ■ ■

～(一社)日本バルブ工業会事務局からのお願い～

地震、台風などの災害による会社社屋への被害や、製品の製造作業中に死傷者がでる事故等が発生した場合には、速やかに当会宛にご報告をお願いいたします。

(報告の目安)

- ・従業員、作業員等に死傷者が生じた災害または事故
- ・会社の生産活動に支障を及ぼした災害または事故

災害、事故によっては、国が必要な対策を講じなければならない場合もあるため、報告の速報性が重要となります。(災害、事故報告の第一報は、分かっている範囲の内容で結構ですので、まずは第一報を速やかにご報告ください。)

提出された「事故、災害報告書」については、内容を確認の上、所管官庁(経済産業省)へ報告いたしますが、当会及び経済産業省が本報告書をもとに対外的に公表することはありません。

※「災害、事故報告書」の様式は[当会HP](#)「会員専用サイト」の事務局からのお願いをご参照。

(会員専用サイトへは、各社のユーザーIDとパスワードの入力要)

会員の動向

社名変更

平成27年1月1日

新社名: 黒谷(株)

(旧社名: (株)クワタニコーポレーション)

(呼称変更)

平成26年12月

新社名: BBKテクノロジーズ

(登記社名は従来通り、文化貿易工業(株))

代表者変更(敬称略)

・イハラサイエンス(株)

平成27年1月 代表取締役社長 長尾 雅司

・(株)福井製作所

平成26年12月 代表取締役社長 福井 洋

・ABB日本ベレー(株)

平成27年1月 代表取締役社長 川上 宣夫



本年もよろしくお願ひ申しあげます!

平成27年1月29日発行 ■■■ JVMA 通信No.15 ■■■

(発行元) 一般社団法人 日本バルブ工業会

TEL: 03-3434-1811 FAX: 03-3436-4335

E-mail: info@j-valve.or.jp

